



ようやく、うろこ雲が「秋」の訪れを教えてくださいました。  
とても、きびしい暑さの夏でしたね。安田式プール大活躍の夏でした。  
私は、「能力開発セミナー」というコーチング講習受講の為、お盆前(8/10・11・12・13)  
東京で4泊させて頂きました。朝9時～夜10時まで丸3日間！！耐久レースの様に  
感じて参加しました。20代～70代まで老若男女224名！という大勢の中で

**「大切なものを大切にする。」**という、当たり前のように思える考え方について、36時間じっくりと  
学びました。また、日本シンクロナイズドスイミング井村雅代ヘッドコーチのご講演にも参加しました。  
「1mmずつの成長」を認める力、「**決めた**」という本当の願望を引き寄せる波動についても、改めて納得する  
内容でした。沢山のステキな出逢いの中で考えた夏になりました！！



～アドラーより～

## 罰の好ましくない副作用

### 1. 罰は負の注目になる

子どもを罰すると、一時的には不適切な行動はなくなるかもしれませんが。罰の唯一の利点は、即効性があることです。  
しかし、しばらくするとまた同じ不適切な行動をくり返すかもしれません。それは、罰が負の注目になってしまっているか  
らです。このような子どもは、「無関心でいられるよりは、罰せられてでも、親の注目を引いている方がいい」と考えてい  
るのです。

### 2. 罰する人がいなければ、不適切な行動をする

罰する人がいるときには不適切な行動をしない子どもでも、罰する人がいないと不適切な行動をするかもしれません。  
このような子どもは、「叱られるか叱られないか」ということだけで善悪を判断しています。つまり、自分の内側に善悪の  
基準をもっていないのです。

### 3. 親子関係が悪くなる

親が子どもを罰するのは「子どものためを思っているからだ」「子どもを愛しているからだ」と、親の方は考えているか  
もしれません。しかし、子どもの側から見ると「親は私のことを嫌いなんだ」「親は罰でもって私を支配しようとしている  
んだ」と感じてしまうかもしれません。そうすると、子どもは親を憎むようになり、親子関係は悪化してしまいます。

### 4. 罰は子どもを消極的にする

罰によって子どもは不適切な行動を永続的にやめるようになることもあります。しかし、罰によっては適切な行動を学ぶ  
ことができません。罰でもって育てた子どもは、不適切な行動もしないかわりに、適切な行動もしない、消極的で意欲を失  
った「やる気のない」子どもになってしまう危険性があります。

### 5. 適切な信念が育たない

罰せられた子どもは、「私は能力がないんだ」と感じたり、「親は私の仲間じゃない」と感じたりすることが多いでしょ  
う。そのような体験をくり返していると、やがてそれは、固い信念になっていくでしょう。そうすると、子育ての目標を達  
成することができなくなり、子どもは自立もしませんし、社会と調和した生活もしなくなってしまうかもしれません。  
それではなにも  
なりません。